

# ジェロントロジー研究協議会

## 研究活動総括報告書

2020年12月

ジェロントロジー研究協議会事務局

## 目 次

1. はじめに	1
2. 研究体制	1
(1) 研究協議会	1
(2) 研究会	2
(3) 研究クラスター別分科会	2
(4) 事務局	2
3. 主な研究活動	3
4. 主な研究成果	4
(1) 高齢者を対象としたファクト調査	4
(2) 教育プログラムの開発・プレ研修の実施	5
(3) 分野別社会的事業の検討・推進	8
(4) 自治体、大学、企業等との連携推進	10
5. 今後の活動 ～研究フェーズから実行フェーズへ～	11
(1) 教育事業	11
(2) パブリックオピニオン（会員組織化）事業	11
(3) 社会的事業	12
6. 結び（今後に向けて）	13
ジェロントロジー研究協議会コアメンバー名簿	14
ジェロントロジーに係る体系的研究会メンバー名簿	15

## 1. はじめに

ジェロントロジー研究協議会は、座長である寺島実郎（（一財）日本総合研究所会長、多摩大学学長）が 2018 年 8 月に刊行した『ジェロントロジー宣言―「知の再武装」で 100 歳人生を生き抜く』（NHK 出版新書）で設立を宣言したことをきっかけに、多くの産業界・学界からの有識者や、企業、大学、自治体等のステークホルダーの協力を得て発足した。

上記『ジェロントロジー宣言』では、日本が目指す社会のあり方や、人間の生き方を再構築するために不可欠なアプローチとして、これまで「老年学」と訳されてきた「ジェロントロジー」を「高齢化社会工学」と捉え直している。具体的には、高齢者（その象徴として、都市郊外、特に国道 16 号線周辺に居住する高齢者）を、社会システムの中にもう一度位置づけ直し、「知の再武装」を行って社会に参画し貢献する主体（コスト側から社会を支える側）として活躍できるプラットフォームを設計・構築することが必要と提起している。

さらに「あとがき」では、本格的かつ体系的なジェロントロジー研究を進めるために、様々な分野の専門知を体系化し、高齢化社会における「参画のプラットフォーム」を創造する試みに挑戦すると述べており、そのために設立された主体が本研究協議会である。

2 年間の研究フェーズでは、高齢化社会における「参画のプラットフォーム」を創造するため、後述する 6 つの研究分野を設定の上、体系的な研究を実施し、コロナ禍の影響による 3 か月間の研究期間の延長を経て、2020 年 9 月に終了した。本報告書は、2 年間ににおける研究活動の概要とその成果をとりまとめたものである。

## 2. 研究体制

本研究協議会は、大きく以下の 4 つの組織体で構成されている。

### （1）研究協議会

研究協議会はわが国のステークホルダーのキーマンによるメンバーで構成されており、自治体、メディア等をはじめ数多くのオブザーバーも参画している（研究協議会コアメンバーは巻末 p14 参照）。

主なミッションは、研究全体の方向性の検討、研究会や分科会で検討された事業の支援・オーソライズ等である。

## (2) 研究会

研究会は学界・産業界からの若手専門家を中心に構成されており、パラダイム転換に資する研究を大きく進化させるため、多様な人材・専門家が参画している(研究会メンバーは巻末 p15 参照)。

主なミッションは、分科会や事務局から提案された研究内容の検討等である。

## (3) 研究分野別分科会

研究分野(図 1 の①宗教・こころ、②医療・健康、③美容、④金融、⑤農業、⑥観光の 6 分野)毎に設置している分科会は、研究会メンバーのほか、各分野の専門家、起業家、事業者等を中心に約 30 名で構成される。

主なミッションは、「参画のプラットフォーム」のための新たな社会的事業や人材育成プログラム等の設計・推進である。

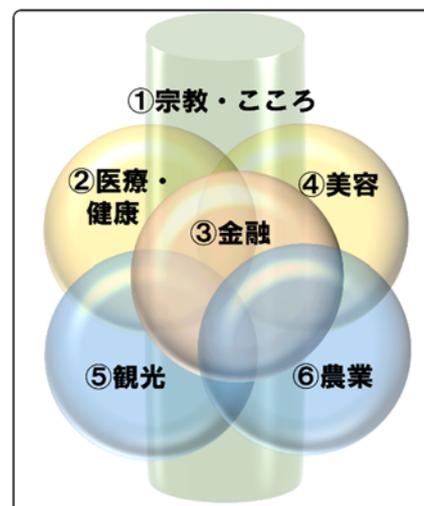


図 1 研究分野

## (4) 事務局

事務局は、日本総合研究所、多摩大学、山野学苑、日本ユニシスで構成される。

主なミッションは、社会的事業や人材育成プログラムの企画・調査、広報・ファンドレイジング活動、参画・連携(国内・海外)推進、データ収集・蓄積・提供、高齢者及び高齢者予備世代(シニア)の組織化等である。

## 3. 主な研究活動

本研究協議会では、2018年6月～9月までの構想・基礎調査期間を経て、2018年10月～2020年9月までの2年間、高齢化社会における「参画のプラットフォーム」の創造に向けて、主に以下の研究活動を実施してきた。

- ・ 高齢者を対象としたファクト調査
- ・ 教育プログラムの開発・プレ研修の実施
- ・ 分野別社会的事業の検討・推進
- ・ 自治体、大学、企業等との連携推進

2年間の主な研究活動の工程は次頁図 2 の通り。

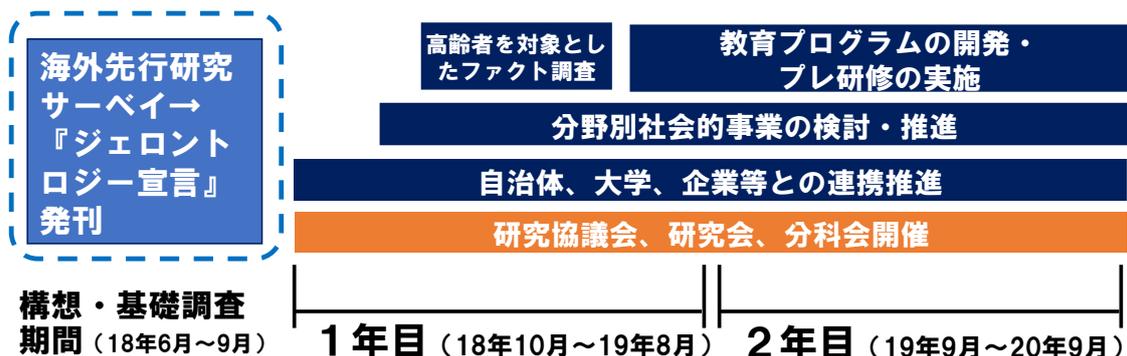


図 2 2年間の主な研究活動日程

研究協議会、研究会の開催実績（日程、主な検討議題）は表 1、表 2 の通り。

表 1 研究協議会開催実績

回（日程）	主な検討議題
第 1 回 (2019. 1. 31)	本研究協議会の趣旨・ミッション・組織体制・工程計画説明等
第 2 回 (2019. 5. 13)	高齢者（70 歳代男性）を対象とした社会的事業への参画意向ファクト調査結果報告 等
第 3 回 (2019. 9. 11)	ジェロントロジー人材育成共通プログラム実施結果報告等
第 4 回 (2019. 11. 27)	高度観光人材育成プログラム中間報告 等
第 5 回 (2020. 3. 11)	包括プログラム「知の再武装・ジェロントロジー講座」の提示 等
第 6 回 (2020. 8. 31)	研究フェーズの総括／実行（立ち上げ）フェーズ構想の提示等

表 2 研究会実績

回（日程）	主な検討議題
第 1 回 (2018. 10. 24)	本研究の趣旨説明／参画のプラットフォーム構想の提示等
第 2 回 (2018. 12. 20)	多摩地域調査に関する報告 等
第 3 回 (2019. 3. 7)	宗教・こころ分野に関するプレゼンテーション、美容分野での研究進捗状況報告 等
第 4 回 (2019. 4. 12)	美容、金融、観光分野に関する研究進捗状況報告 等
第 5 回 (2019. 7. 18)	ジェロントロジー人材育成共通プログラムの提示 等
第 6 回 (2019. 12. 5)	ジェロントロジー人材育成プログラムプレ研修開催結果報告 等

#### 4. 主な研究成果

研究活動「高齢者を対象としたファクト調査」、「教育プログラムの開発・プレ研修の実施」、「分野別社会的事業の検討・推進」、「自治体、大学、企業等との連携推進」それぞれの主な成果を以下に示す。

##### (1) 高齢者を対象としたファクト調査

「参画のプラットフォーム」を設計・創造するにあたり、まずは高齢者や高齢者予備世代の実態やニーズを把握することを目的に、以下の4つのアンケート（ファクト）調査を実施した。

- ①社会的事業への参画意向ファクト調査（16号線沿い居住 70歳代男性）
- ②妻から見た70歳代男性に関する調査（16号線沿い居住 65～79歳女性）
- ③認知症・銀行・後見制度に関する調査（16号線沿い含む全国 75歳以上男性）
- ④高度観光人材育成に関するニーズ調査（16号線沿い居住 55～79歳男女）

①、②の調査において、国道16号線沿い居住の高齢者の生きがいややりがいの有無、学びや社会参画への意向等の特性を把握した。この調査結果で得た知見は、主に人材育成プログラム開発に活用された。

③の調査では、認知症になった場合の銀行預金の取り扱いに関する考え方や、金融分科会で検討している認知症高齢者向けの新たな社会的事業へのニーズについて把握した。

④の調査では、増加する外国人観光客に対し、日本の生活・文化の体験を提供したり、お薦めの場所を案内することで交流しながら観光サービスを提供できる「高度観光人材」としての活動への意向や、観光分科会で検討している人材育成プログラムへのニーズについて把握した。

上記4調査のうち、最も基礎的な調査である①の主要な結果を図3に示す。

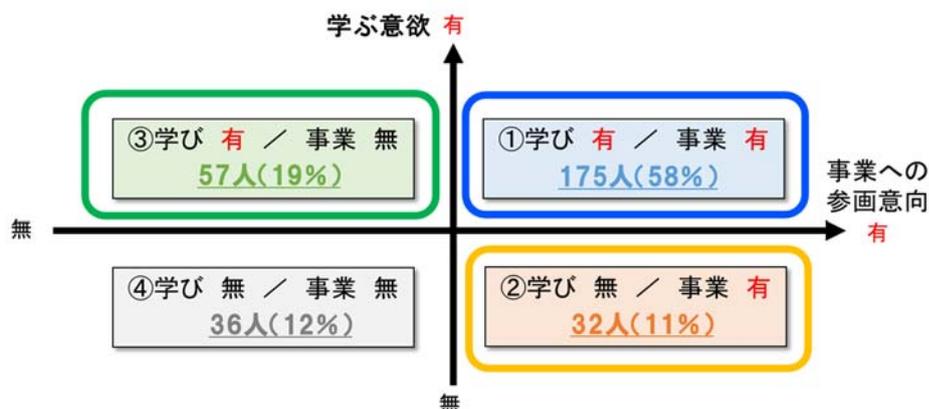


図3 学ぶ意欲、事業への参画意向調査結果（16号線沿い居住 70歳代男性）

国道 16 号線沿いに居住する 70 歳代男性 300 人を対象に、「学ぶ意欲」と本研究協議会が検討している「事業への参画意向」を尋ねたところ、共に意欲有という男性が 58%という結果となった（図 3 青枠）。この層は「参画のプラットフォーム」への参画が特に期待できる層であると言える。

なお、国道 16 号線沿い地域の 70 歳代男性数は約 50.8 万人（総務省「国勢調査」2015 年）であることから、国道 16 号線沿い地域の 70 歳代男性の潜在的参画者は約 29.4 万人（=50.8 万人×58%）と試算される。

また、「学ぶ意欲」または「事業への参画意向」のいずれかを有している 70 歳代男性が合わせて約 30%（緑枠+黄色枠）という結果となった。

## （2）教育プログラムの開発・プレ研修の実施

高齢者の実態（ニーズ）把握ファクト調査結果を踏まえ、本研究におけるメインコンテンツの 1 つである、シニアが人生 100 年時代における「知の再武装」を行うための人材育成プログラムの開発を実施した。

具体的には、「ジェロントロジー人材育成共通プログラム」、「高度観光人材育成プログラム」の 2 回のプレ研修と、その結果を踏まえて『「知の再武装」100 歳時代のジェロントロジー総合講座』（以下、「ジェロントロジー総合講座」）の開発を実施した。

### 1) 「ジェロントロジー人材育成共通プログラム」の開発・プレ研修の実施

人生 100 年時代に必要と考えられる知識やシニアの役割を演習も行いながら学ぶことができる、ジェロントロジー人材育成共通プログラムを開発し、2019 年 8 月にプレ研修を開講した（8/27-29 多摩大学多摩キャンパス、57 歳～78 歳男女延べ 20 名参加）。

プレ研修では、年を取ることの意義や高齢期の人間関係、体・頭に加齢現象といったジェロントロジーの基礎を理解した後、美容、健康、観光、金融分野のシニアの役割について演習を行いながら学ぶプログラムを計 18 時間で実施した。

ジェロントロジー研究協議会ホームページでは 3 日間の研修のダイジェスト版動画を公開している（次頁図 4 の QR コードより視聴可能）。



図 4 ジェロントロジー人材育成共通プログラム プレ研修の様様

修了後の受講者の声として以下のようなものがあり、受講者のマインドを変え、行動を促す講座としては有効なプレ研修であったと総括できる。

- ・自分の老後生活のばく然とした考えが、かなり具体的なイメージを持てるようになった
- ・高齢化の中で起こる社会の課題解決にたくさんの視点があることを教えていただいた、
- ・ジェロントロジーとは何ぞやの内容や活動の一端が判ってきた
- ・分野別のシニア活動を具体的に構想する方向が判った
- ・かなり鮮明に行くべき output の方向性を見出すことが出来た
- ・各分野で担える役割を考えていきたい

## 2) 「高度観光人材育成プログラム」の開発・プレ研修の実施

6つの分野のうち、今後高齢者が活躍できる分野として観光分野に着目し、外国人観光客に対し、オリジナリティのある体験・ガイドングサービスを提供できる人材の育成を目指す観点から、高度観光人材育成プログラムを開発し、2019年11月～12月にプレ研修を開講した（11月8日～12月4日期間中の全8日間、多摩大学九段サテライト・湘南キャンパス等、57歳～78歳男女延べ22名参加）。

プレ研修では、おもてなし・コミュニケーション講座を学んだ後、受講生1人ひとりがガイドングプラン作成、そのプランを基に多摩大学の留学生を対象としたガイドングを行った。また、Airbnb Japan（株）と連携の上、実際の

体験・ガイドングサービスに同行し、オリジナリティのある体験・ガイドングとはどういったものかを学んだ。

ジェロントロジー研究協議会ホームページでは、研修のダイジェスト版動画を公開している（図 5 の QR コードより視聴可能）。



図 5 高度観光人材育成プログラム プレ研修の様様

修了後の受講者へのアンケート結果によると、本プレ研修に学びの対象で受講した人が全体の約半数であったが、1/3 は観光人材としての活動を前提に前向きに検討する、との回答があった。また、（個人差はあるが）70 歳代のシニアには今回のような高度観光人材としての活動は体力的に難しい、との感想があり、観光人材育成の対象とする年齢設定の参考となる結果が得られた。

さらに、今回多摩大学（湘南キャンパス）の留学生と連携したが、留学生にとってガイドングプランへの参加は日本を詳しく知るよい機会だったと好評であった。これより、観光人材育成プログラム実施時における大学（留学生）や自治体との連携の可能性が示唆された。

### 3) 「ジェロントロジー総合講座」の開発

「高度観光人材育成プログラム」の成果を踏まえて、人生 100 歳時代を見据えて自らを見つめ直し、新たな役割を探すためのきっかけとなる「ジェロントロジー総合講座」を開発した。なお、当初は集合型の講座を想定していたが、コロナ禍を受けて「オンラインでの講座配信＋宿題を通じた演習」という形式で開発した。

講座のプログラムは次頁表 3 の通り。この講座はジェロントロジー研究協議会の後継組織である、ジェロントロジー推進機構のホームページよりオンラインで配信される。

表 3 「知の再武装」 100歳時代のジェロントロジー総合講座 プログラム

講座テーマ		講師名	
総括	なぜ「知の再武装」が必要なのか	寺島 実郎	(一財)日本総合研究所会長・多摩大学学長 【ジェロントロジー研究協議会座長】
ジェロントロジー基礎	ジェロントロジーとは？	宮内 康二	山野学苑教授 【ジェロントロジーに係る体系的研究会 座長代理】
宗教・こころ	時代に合わせて変容する縁 ～現代社会における神社仏閣～	高瀬 顕功	大正大学社会共生学部／地域構想研究所BSR推進センター専任講師 【ジェロントロジー研究「宗教・こころ」分科会 主査】
医療	高齢者医療のトピックス ・フレイル(虚弱)とその予防 ・ポリファーマシー ・advance care planning	甲斐 一郎	東京大学名誉教授 【(一財)日本総合研究所倫理委員会 委員長】
健康	食べる健康と予防 ～自分の体質に応じた美味しい食事で健康と予防を培う 健食と健活～	並木 幸久	(一財)日本総合研究所招聘研究員 九州大学グローバルイノベーションセンター客員教授 【ジェロントロジー研究「医療・健康」分科会 主査】
金融	シニア向け金融商品など存在しない！ ～手数料負けしない終身運用の3大エッセンス～	山崎 元	経済評論家 【ジェロントロジー研究「金融」分科会 メンバー】
福祉・金融	知的障がいのある子がいる親御さんの苦悩 ～「一緒に天国に連れていきたい」なんて言わせない～	鹿野 佐代子	NPO法人ら・し・さ理事 AFP/終活アドバイザー 【ジェロントロジー研究「金融」分科会 オブザーバー】
金融	せっかく築いた財産も認知症で騒動の火種に？ ～後見トラブルにみる老後の家族関係～	宮内 康二	(一社)後見の杜代表 【ジェロントロジー研究「金融」分科会 主査】
移動・旅行	高齢者のお出かけはちょっとした助けがあると叶う！ ～外出の“夢”を叶える介護旅行～	篠塚 恭一	(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役 【ジェロントロジー研究「観光」分科会 主査】
美容・美齢	身だしなみに年齢って関係あるの？施設に入ったら 刈上げにされるの？！ ～爪磨きから始めるユニバーサルBeauty(美齢学)～	及川 麻衣子	山野美容芸術短期大学准教授 【ジェロントロジー研究「美容」分科会 メンバー】
社会参加	人生100年時代の社会参加とはじめ ～経験・スキル・専門知識を活かした地域活動・ボランティア・プロボノのすすめ～	嵯峨 生馬	認定NPO法人サービスグラント代表理事 【ジェロントロジーに係る体系的研究会 委員】

### (3) 分野別社会的事業の検討・推進

宗教・こころ、医療・健康、美容、金融、農業、観光の6つの研究分野について、分科会等で検討した社会的事業の主な成果を以下に列記する。

#### 【宗教・こころ】

自らの人生を振り返り、これまでの人生の振り返りや棚卸しを通して、これからの人生をいかに豊かなものにするかを描き、第一歩を踏み出すためのツールとして「人生そうぞうノート(右図)」を作成した。

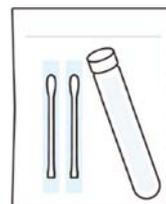
人生そうぞうノート

## 【医療・健康】

特に健康分野に着目し、体質に応じた食事を食べることによる日々の食事管理により、誰もが自分の健康を自分で管理することができる「セルフケアシステム」の可能性とその効果の研究を実施した。

具体的には、埼玉県神川町と協定を結び、50歳代～70歳代の男女24人を対象とした「遺伝子検査により食事体質を把握→体質に合った食品提供→健康や食習慣への効果を観察」する健食事業を実施している(2021年3月終了予定)。

なお、本研究事業は被験者の生体データを取り扱う研究であることから、倫理委員会(委員長:甲斐一郎 東京大学大学院医学系研究科(医学部)名誉教授他、弁護士・神川町関係者等6名で構成)の承認を経た上で開始している。



遺伝子検査キット



体質に合う食事

## 【美容】

埼玉県本庄市と協定を締結し、市報にて30名のモニターを募集、在宅高齢者向け美容施術(介護サービスの時間中のネイルケア)を実施した(写真は施術の様様)。

また、今後豊ヶ丘団地(東京都多摩市)においても同様に高齢者向け美容施術を実施する予定である。



美容施術の様様

## 【金融】

成年後見に係る相談窓口として、公証人経験者等と連携した「後見ほっとライン」事業のパイロットプラン(全国を対象)を実施し、成年後見に課題を把握するとともに、解決に向けたアドバイスを行った。

## 【農業】

埼玉県上尾市と協定を締結、当地企業((株)川越農産)とも連携して農業体験研修プログラムの開発を行った。

なお、2020年2月～3月にかけて、当プログラムのプレ研修の募集を行ったが、コロナ禍の影響もあり、実施できなかった。



農業体験研修プログラム募集チラシ

## 【観光】

前述した通り高度観光人材育成プログラムを開発し、2019年11月～12月にプレ研修を開講した。

### （４）自治体、大学、企業等との連携推進

#### １）自治体との連携

「ジェロントロジーのための実証事業に関する協定」を、埼玉県本庄市、上尾市、川口市、神川町と締結し、美容、農業、健康分野での研究を連携して実施した。

また、2019年11月25日、12月5日に実施した「地方自治体・企業等連携に関する説明会」では、9自治体の参加があり、その後個別に今後の連携可能性等の協議を行った。

#### ２）国道16号線周辺大学との連携

国道16号線周辺大学のうち、本研究協議会の事務局を構成している多摩大学は、ヒアリング調査等を含めた共同研究や、プレ研修開催大学として連携を行った。

2019年11月25日、12月5日に実施した「地方自治体・企業等連携に関する説明会」では、3大学の参加があった。

#### ３）その他の連携

高度観光人材育成プログラムは、(株)JTB、(株)SPI あ・える倶楽部と協働して開発を行った。また、当プログラムでの体験・ガイドングサービス同行にあたってはAirbnb Japan (株)の協力を得た。

埼玉県神川町における健食事業では、遺伝子検査は(株)ブラケアジェネティクス、体質に合う食品提供はフリーズ食品開発(株)と連携の上、実施している。

「後見ほっとライン」事業のパイロットプランは、(一社)後見の杜と連携して実施した。

美容事業では山野学苑と連携し実施した。今後実施予定の豊ヶ丘団地における高齢者向け美容施術事業では、UR(都市再生機構)の協力を得て実施予定である。

2019年11月25日、12月5日に実施した「地方自治体・企業等連携に関する説明会」では、9自治体、12企業、3大学の参加があった。

## 5. 今後の活動 ～研究フェーズから実行フェーズへ～

2018年10月から開始した2年間の「研究フェーズ」は2020年9月で終了し、その成果を継承し、「参画のプラットフォーム」を実装化するための「実行フェーズ」に移行する。

その実施主体として、ジェロントロジー研究協議会の事務局を担った（一財）日本総合研究所において、2020年10月に「ジェロントロジー推進機構」を設立した。



URL : <https://www.gerontology.online/>

### 図 6 ジェロントロジー推進機構 ホームページ

ジェロントロジー推進機構では、大きく3つの事業を実施する。

#### (1) 教育事業

教育事業のコンテンツの第1弾として、ジェロントロジー研究協議会が開発・製作を行った「ジェロントロジー総合講座」（「オンライン+演習」型）を2020年10月から配信する（修了者には修了証発行）。

今後は、金融、NPOマネジメント、健康、観光、美容、農業等の、専門性を高めるための講座（修了者には資格認定）や、現役世代向けの「知の再武装」講座の開発・提供を予定している。

#### (2) パブリックオピニオン（会員組織化）事業

「ジェロントロジー総合講座」修了が入会の要件であるジェロントロジー会

員を募集する。

会員となることで、弊所認定の「市民リサーチャー」（自身や住んでいる地域の「困りごと」や、社会をよくするための「ニーズ」などを、市民目線で文章や動画を通じて世の中に発信する役割）として活動することができるとともに、会員向け限定コンテンツ（生活役立ち動画、ディスカウント・ポイントサービス等）の提供や、会員間交流プラットフォームの提供を予定している。

### （3）社会的事業

医療・健康分野におけるシニアの健康を促進するための食事提供（健食）事業や、金融分野におけるお金や認知症に関わる相談事業などを、企業・自治体等と連携の上創出する（その他の分野でも順次事業を創出）。上記事業において専門講座の修了者が活動することも想定する。

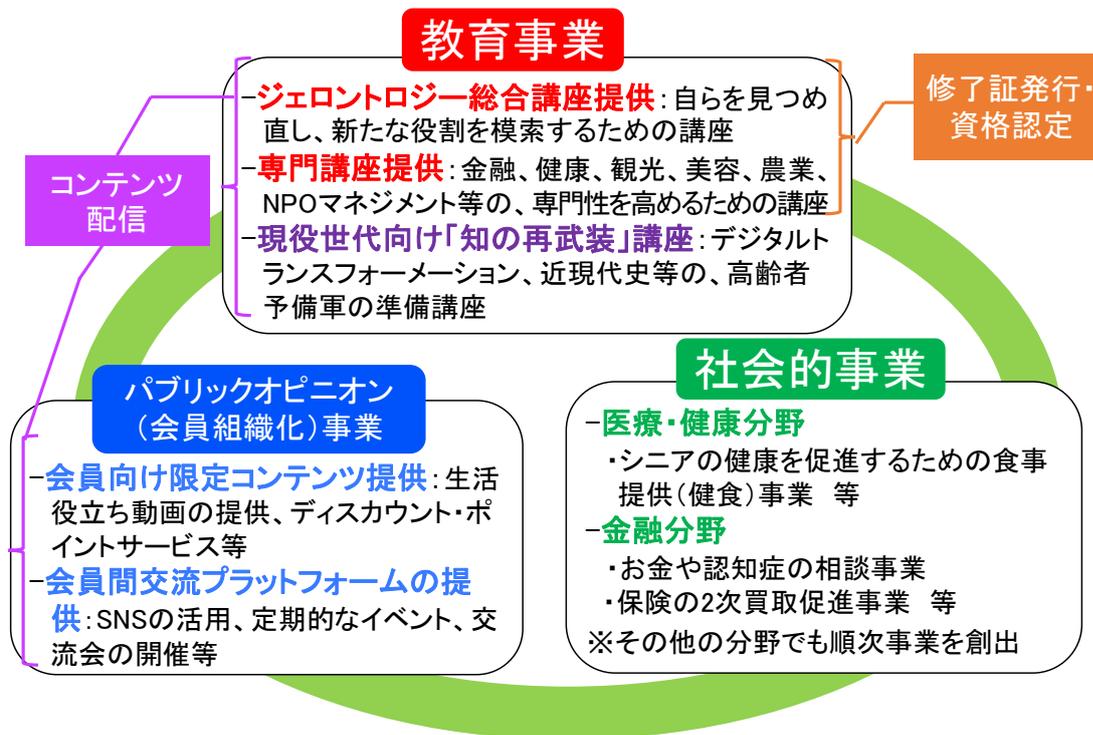


図 7 ジェロントロジー推進機構の主な事業

## 6. 結び（今後に向けて）

異次元とも言うべき高齢化社会の到来に対して、これまでの社会制度・システムの延長ではもはや対応できず、新たな社会構想が求められている。

ジェロントロジー研究協議会が検討した「参画のプラットフォーム」は、現在の高齢者だけでなく、将来の高齢者である現役世代や、さらにはこども世代にとっても自らを見つめ直し、新たな役割を見つけることができる「全世代型」のプラットフォームとなることを目指している。

このプラットフォームが発展・普及すれば、やりがい・生きがいを持って生きる人が各世代で増え、それぞれが社会に貢献することで世代間の好循環を生み、その結果、幸せで豊かな人生を送る人が増えると想定される。このような姿が、高齢化社会において相応しい、新たな日本の社会像であるとジェロントロジー研究協議会では考える（図 8 参照）。

「参画のプラットフォーム」は、今後ジェロントロジー推進機構において実装化していくこととなる。ジェロントロジー研究協議会ではその取組を今後も支援していく方針である。

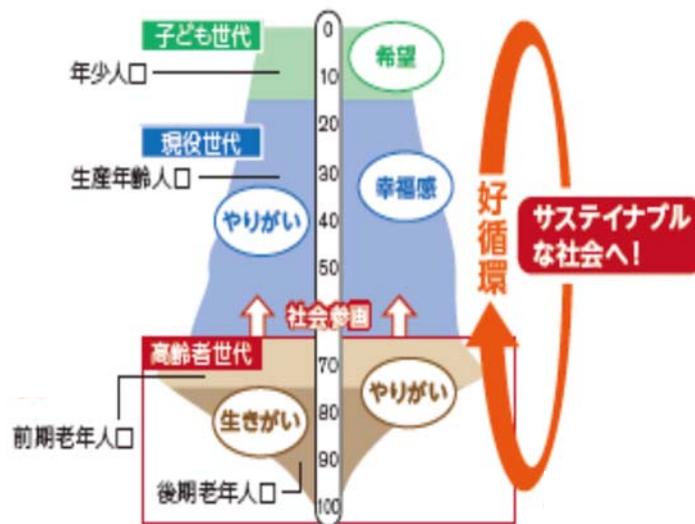


図 8 目指す社会像イメージ図

## ジェロントロジー研究協議会 コアメンバー名簿

イケモリ 池森	ケンジ 賢二	(株) ファンケル名誉相談役ファウンダー
キタザワ 北沢	トシフミ 利文	東京海上日動火災保険(株)取締役副会長
コガ 古賀	ノブアキ 伸明	(公財) 連合総合生活開発研究所理事長
サトウ 佐藤	ヤスヒロ 康博	(株) みずほフィナンシャルグループ取締役会長
スガワラ 菅原	キミカズ 公一	(株) カネカ代表取締役会長
タガワ 田川	ヒロミ 博己	(株) JTB 取締役相談役
テラシマ ◎寺島	ジツロウ 実郎	(一財) 日本総合研究所会長・多摩大学学長
ナカジマ 中島	マサヒロ 正弘	(独) 都市再生機構理事長
ヒラオカ 平岡	アキヨシ 昭良	日本ユニシス(株) 代表取締役社長
フジイ 藤井	タケシ 健	(株) 東急総合研究所顧問
ミヤジマ 宮島	アツシ 篤	保健・医療パラダイムシフト推進協議会理事長代行
ヤマノ 山野	マサヨシ 正義	山野学苑総長

◎座長 (50音順、敬称略、12名)

### (オブザーバー)

エサキ 江崎	ヨシヒデ 禎英	内閣府大臣官房審議官 (科学技術・イノベーション担当)
-----------	------------	-----------------------------

(敬称略、1名)

※2020年8月(第6回研究協議会開催時)時点

# ジェロントロジーに係る体系的研究会 メンバー 名簿

飯田 泰之 明治大学政治経済学部准教授

石原 英里 日本ユニシス（株）総合技術研究所生命科学室長

小野田 弘士 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授

久保田 貴文 多摩大学経営情報学部准教授

○小林 英夫 多摩大学経営情報学部教授

嵯峨 生馬 認定 NPO 法人サービスグラント代表理事

桜井 良太 東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域  
保健研究チーム研究員

高汐 一紀 慶應義塾大学環境情報学部教授

高瀬 顕功 大正大学地域構想研究所 BSR 推進センター専任講師

津田 好美 早稲田大学文学部准教授

◎寺島 実郎 （一財）日本総合研究所会長・多摩大学学長

松宮 朝 愛知県立大学教育福祉学部准教授

○宮内 康二 山野学苑教授

◎座長、○座長代理 （50音順、敬称略、13名）

※2020年8月（第6回研究協議会開催時）時点

**【お問合せ先】** ジェロントロジー研究協議会事務局

URL : <https://www.gerontology.top/>

E メール : [gero-jimukyoku@jri.or.jp](mailto:gero-jimukyoku@jri.or.jp)

電話 : 03 - 5275 - 1615

住所 : 〒102-0082 東京都千代田区一番町 10-2 一番町 M ビル

(一般財団法人日本総合研究所調査研究本部内 (担当 : 青木、清水))